

●東京シティ信用金庫
 創業年：1950年
 代表者：小池誠一
 事業内容：地域の中小企業および個人からの預金等の受け入れ、資金の貸付および為替取引等
 預金量：6,269億円
 融資量：3,749億円
 従業員数：626名（平成22年3月31日現在）
 所在地：東京都中央区日本橋室町1-9-14
 電話：03-3279-4321
 URL：http://www.shinkin.co.jp/to-city/



本店外観

1970（昭和45）年3月27日、東京生まれの長男育ち。上田市立神川小学校卒業。ランニングが趣味で、仕事帰りや週末に走り込み、ロードレースやハーフマラソンに出場する。年明け1月にフルマラソンに初挑戦の予定。好きな店・おススメ：老舗日月堂「コーヒ生大福」は、餅とクリームのパランスが絶妙の逸品。雰囲気も眺めも最高でおススメしたいのが、日本橋1-1-1 国分ビル1階の「ニホンバシ イチノイチノイチ」。



東京 日本橋 まちづくりネットワーク 8

●日本橋めぐりの会 遠藤梨栄

本連載では日本橋界隈を舞台に、まちづくりに取り組み人々とその活動を紹介する。まちを愛し、奮闘する「まちびと」の輪をリレー形式でつなぐ。



日本橋の袂、北西側にある道路の起終点を示す東京市の道路元標。1911（明治44）年、現在の日本橋の架橋時に設置された。もともと道路中央にあったが、都電・本通線の架線柱として使用されていたため、都電廃止後は現在の歩道側に移設された。



「室一祭り」で神輿を担ぐ麻生さんら金庫職員。熱気と汗が人々の一体感を醸成する



環境意識も高まる「橋洗い」。長年の努力の成果か、川にはハゼも戻ってきたという



童心にかえって参加者とともに楽しむ「縁日」は地域の方々との出会いとふれあいの場

信用金庫は営業エリアと取引対象者を定めているので、地域に根ざしたきめ細やかなサービスができる。日本橋に本店を置く東京シティ信用金庫で働く麻生穰之さんは、秋葉原支店から移って3年。他地域の支店に比べて地域行事が多く、本店職員も積極的に関わっている様子が戸惑った時期もあったが、今では逆にこの距離感が心地よい。

麻生さんが参加する5月の町会主催「室一祭」。頭にねじり鉢巻き、法被を着て神輿を担ぐ。神輿が揺れる度に花棒が肩に当たることが、祭りの熱気に痛みも忘れる。さらに7月には名橋・日本橋の「橋洗い」。今年は1600人以上が参加した恒例の清掃活動だ。参加者は環境浄化を願い、橋上からEM（有用微生物群）団子を川に投げ入れ、デッキブラシで橋を洗う。「地域の方々への感謝の気持ちを込めて、ブラシを握る手にも力が入る」と麻生さん。

8月末には「縁日」も。金魚すくいや綿あめ、射的や輪投げなど縁日ならではの楽しみもある。麻生さんは飲み物担当。慣れない手つきで泡だらけになりながらビールを注ぐ。見るに見かねたお客さんがコツを伝授。こうして地域との新たなつながりも生まれる。インターネットやメールでこ足りてしまう時代。「対面」は煩わしいこともあるが、人が顔を突き合わせることで生まれる出会いや喜びは大きい。辛いことがあっても、ゴールした時の達成感や満足感は何ものにも代えられない。地道な活動と継続がまちづくりの礎になるのである。

成せばなる 成さねばならぬ まちづくり

まちづくりへの関わりは、その人がどう生きるかを表している。長く辛い道のりも、自身を奮起させ、あきらめずに乗り越えていくのは、趣味のマラソンにも似ている。「やらない、できない言い訳はしない」。よりよいまちをつくるのも、この心意気だ。



「次のまちびと」
 「三越日本橋本店」
 の永森昭紀さん